

再評価調書（再々評価）

事業名	淀川水系 谷田川 通常砂防事業				
所在地	大東市 北条				
再々評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中				
事業概要	目的	都市に直接的に土砂災害を及ぼす恐れのある溪流について、砂防設備の整備を促進し、土石流等の土砂災害に備える。			
	内容	溪流保全工 護岸工 L = 245m			
	事業費	全体事業費 計画約 8.4億円 投資事業費約 6.9億 内用地費 計画約 3.2億円 内用地費約 3.0億 (土地単価約28.9万円/m <sup>2</sup> ) 内工事費 計画約 5.2億円 内工事費約 3.9億 (工事単価約277.6万円/m) 再評価時点における事業費 約 8.4億円			
	維持管理費				
	上位計画	大阪府都市基盤中期整備計画(案)			
	関連事業				
事業の進捗状況	経過	計画時の想定	再評価時点	現時点	分析
		事業採択年度 S57	S57年	S57年	
		事業着手年度 S57	S58年	S58年	
		完成予定年度 S60	H23年	H18年	
進捗状況	用地 - %	計画 36 %	計画 94 %		
	工事 - %	計画 29 %	計画 57 %		
途中段階の整備効果発現状況	護岸整備により河道の安定を図り、出水時における氾濫を防止し、保全対象の安全を確保する。				
事業進捗に関する課題					

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	計画時の想定	再評価時点での状況	現時点での状況	分析
		災害発生危険度 人家が溪流沿いに連たんしており、年々山間部への開発が進み、土砂災害の発生する危険性が高まっている。	同左	同左	諸状況に変化なし。
事業を巡る社会情勢の変化	地元等の協力体制	計画時の想定	再評価時点での状況	現時点での状況	分析
		地域の災害に対する関心が高く、大東市北条地区災害対策協議会からも早期完成の強い要望がある。	同左	同左	地元等の協力体制に変化なし。

		計画時の想定		備考	再評価時点での状況	現時点での状況（変更点）	分析
事業効果の定量的分析	費用便益分析	計画時点では費用便益分析の手法が確立されておらず、算出できず。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ B / C = 15.23</li> <li>便益総額</li> <li>B = 208.2億円</li> <li>総費用</li> <li>C = 13.7億円</li> <li>算出根拠</li> <li>国土交通省河川部砂防部（H10）「土石流対策事業の費用便益分析マニュアル」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ B / C = 7.35</li> <li>便益総額</li> <li>B = 89.9億円</li> <li>総費用</li> <li>C = 12.2億円</li> <li>具体的な便益内容</li> <li>人命、財産の保護</li> <li>受益者 地域住民、府民</li> <li>費用便益算定の根拠</li> <li>国土交通省河川局計画課監修</li> <li>「治水経済調査マニュアル」</li> <li>国土交通省河川部砂防部（H15）</li> <li>「土石流対策事業の費用便益分析マニュアル」</li> </ul>	<p>砂防事業による十分な費用対効果が期待できる。</p> <p>H10年度は、費用対効果の算出手法が確立されておらず、暫定的なものであったことから、数値に変化が見られる。</p>
	その他の指標（代替指標）						
事業効果の定性的分析	安全・安心	土砂災害による被害の軽減が図れる		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受益者等</li> <li>地域住民</li> </ul>	変更点なし	変更点なし	工事進捗どおり、土砂災害による被害の軽減が図れている。
	活力						
	快適性						
	その他						
自然環境等への影響と対策							
その他特記すべき事項		前回再評価時の意見具申・府の対応方針の概要	（意見具申） （府の対応方針） 事業継続	今回再評価時点の反映状況			